

令和2年度1学期終業式校長式辞（令和2年8月7日リモートで実施）

今日で令和2年度の1学期が終わり、夏休みに入ります。

今年度の1学期は新型コロナウイルス感染症対応のため、教育活動が例年のおり出来ませんでした。誠に残念であり、申し訳なく思います。

しかし、皆さんは6月から再開された学校生活の中で、喪失感や悲しみを前進するためのエネルギーに変え、高校生としての当たり前を諦めないための努力をしています。そのことは、日々の学習や部活動の様子、先ほどの表彰や壮行式にあらわれています。

新型コロナウイルス感染症の流行の有無にかかわらず高校生や高校としての当たり前を諦めてはいけないと思っています。勿論、その時々制限された条件の中で精一杯工夫しながらですが、友人と切磋琢磨しつつ、広い視野に立った真の学力や人間力を身に付けることを目指すべきです。

例えば、昨日は何の日だったでしょうか。広島に原子爆弾が投下されて75年の日です。節目節目で、過去と現在、社会と自分に関して、高校生として考えを深めてほしいと思います。

また、高校生としての当たり前を諦めないことの基盤となるのが、自分自身を大切にすることです。皆さん一人ひとりが今ここにいることが、奇跡であり、かけがえのない大切なことです。自分自身を大切にすることが、一人ひとりのよさを認め合う「自重互敬」につながると考えます。

最後に、本当に短い夏休みですが、一人ひとりが引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底するとともに、偏見や差別につながる行為は、インターネット上も含めて絶対にしてはなりません。

この間の一人ひとりの成長を期待しています。みんな揃って8月17日の始業式に会いましょう。

（県立岡山朝日高等学校 校長 竹田義宣）